

あんにょん シネマ JSA

さあ今回取り上げる映画はある意味で『シュリ』をあらゆる面で超えた映画の登場である。製作規模、観客動員数及び興行成績、マスコミの評価、多くの映画賞受賞、そして『シュリ』は薄っぺらい民族の悲劇を背景にしたあくまでもハリウッド映画の模倣であり、その枠を超えることは出来なかった。この『JSA（原題・共同警備区域）』は昨今の南北交流をあざ笑うかのような衝撃がある。

あらずしは、南北分断の象徴である三八度線上の共同警備区域（JSA）で起こった射殺事件。生き残った南北の兵士たちは何故か互いに全く異なる陳述を繰り返した。両国家の



合意のもと、中立国監督委員会は責任捜査官として韓国系スイス人であるソフィー将校を派遣。彼女は事件の当事者たちと面会を重ねながら徐々に事件の真相を追っていく。そこには全く予想外の「真実」が隠されていた…。

一時間五〇分をときに乱暴に、ときに詩的

に演出したのは朴贊旭（パク・チュヌク）は一九六三年生まれ。西江大学哲学科在籍時から映画評論に手を染め、屈指の理論家として名を馳せ、「韓国の映画監督の中で最も多くの映画を観た男」の三作目の作品である。三八六世代の代表的な監督として今最も注目されている監督である。インタビュアーの中で、同じ南北分断を描いた『シュリ』と比較されることに関してはどのように考えるか？との問いに、監督は、『シュリ』は分断を素材にただで、〇〇七のスパイがロシアを背景に飛び回るのが大差ないのでは。『JSA』とは構造そのものが異なりますし、私には『シュリ』は作れないと思います。もし、カン・ジエギュ監督が『JSA』を撮るとしたら交戦場面が増え、深刻な戦争の危機が誘発されるように描いたのではないでしょう。イ・ヨンエ（ソフィースイス軍将校）とイ・ヒョンホン（スヒョク韓国軍兵長）のロマンスも挿入されたでしょうと答えている。

出演は韓国軍兵士がイ・ヒョンホンとキム・テウ。今まであまりメジャーではなかったが今作以後、出演依頼がひっきりなしという。スヒョクを演じたヒョンホンは韓国成人男子の義務である二年二ヶ月の兵役を終えた後の出演としてこの映画を選んだ。一方、共和国軍兵士を演じたのは、ソン・ガンホ（そつ、

あの『シユリ』で金魚から盗聴器を発見した)とシン・ハギユン。ソン・ガンホは『反則王』(なんと伝説のプロレスラーを演じている)にも主演、『JSA』に続く昨年度の観客動員数が二位になり、今や最も観客を呼べる映画俳優の数少ない一人に上げられている。また本作で一番おいしい役を演じるシン・ハギユン『反則王』にも出演。スパイ・リ・チョルジンの日本公開が待たれる。そして、紅一点のスィス軍将校ソフイー・チャンを演じ李英愛(イ・ヨンエ)は、一九七一年生、小学校の頃から学習雑誌のモデルとして活躍。その後も漢陽大学独文科に通いながらモデルとして活動を続け、韓国では長年化粧品会社のCFに出演、そのキャッチフレーズ、酸素のような女性」の通り、知的な美貌で韓国でのCM女王。日本で例えたら山口智子か松嶋菜々子か。ただ彼女の役がいかに映画のために創られたことが分かるために、うまくいかされてなく本人の熱演も空廻りぎみ。誠に残念である。華麗なる映像表現、真摯に真相が明らかになる様は観ていて飽きないし、もっともっと観続けたい場面もある。ただ、疑問に感じたのは事件後、真相が明らかになるにつれて、当人たちがなぜ死の衝動に駆り立てられるかである。ソフイを中心とした中立国監督委員会の尋問等のまですさもまた、限界も如実に示している。「チョコパイ」の場面ではなぜか笑い声が、しかも大部分から聞こえてきた。作品自体どのように

評価するかは個人の勝手であるが、まだまだ朝鮮半島問題を微妙に率直に感じ取る観客が少ないのだろう。

ちなみに劇中に登場する板門店は実物の九割サイズで忠実に再現されたセットである。新春早々、日本テレビ系『きょうの出来事』の井田由美アナウンサーが生中継したのも、こ

のセットからである。もう一つ特記すべきは、本作は韓国映画で初めてスーパー三五で撮影されたことである。スーパー三五とはと話しが尽きないところで小生、筆を置くことにし、しばし『花様の年華』をおくることにしよう。

(洪昌明)

ひとやすみ

久しぶりに部屋を掃除したら、小学校の卒業文集が出てきた。文集の終わりに「大人になったらなりたいもの」というのがあった。やっぱり多かったのが、「野球選手」、「パイロット」、「医者」、「警察」、「教師」であった。ちなみにおいらはこれらの職業に就きたいなどと考えたこともない。野球=デッドボール。パイロット=墜落事故。医者=手術。警察=殉職。教師=安月給。誰がやるかって感じてあった。

毎年夏に第一生命が小学生を対象に行っている「大人になったら何になりたい?」を調べてみた。過去十年のデータが掲載されていてなかなか面白いのだ。やはりサッカー選手と野球選手はいつの時代も人気があるなぁと再認識しつつ良く見ると、過去十年間に必ず入っている職業があった。「まじっすか!!?」と思わず叫びそうになった。それはなんと「大工さん」である。大工、だいく、DAIKU、d a i k u . . . 。そりゃあ確かに大工さんは「これぞ男!」って職業ではあるけども、本当になりてえかぁ?

そういえば最近あまり大工さんを見かけなくなった。マンションやアパートの建設工事は良く見かけるけど、一軒家を建ているいわゆる「大工さん」はてんで見かけなくなった。考えてみると寂しいなぁ。そういえば小学生の頃、夏休みの宿題の工作を近所の大工さん(藪田さん)に作ってもらって賞をもらったことがあるなぁ。あの舟は立派だった。確か色まで塗ってもらったような気がする。あとでバレたけどね。

「大人になったらなになりにしたい」って夢があっけいいいね。おいらも子供に絶対に聞かそう思うな。二人で風呂に入ったりなんかして「おい、は大人になったら何になりたいんだ?」とかいって「お父さんみたいな人」とか言ってもらっちゃったりして涙ぐんだりして湯船で顔洗ってごまかしたりして子供に「お父さん泣いてる」とかからかわれて、風呂から上がって嫁さんに報告したりなんかして「貴方良かったわね」とか言われてビール飲んでほろ酔い気分になって調子に乗って「好きなもの買ってやる」とか言って嫁さんに「貴方!」とか怒られてえ!少々取り乱してしまった。かたじけない。

ちなみにおいらの子供の頃の「大人になったらなになりにしたい」はジャッキーチェンだった。(ショック!)

by 支持率 84%